天川の水

天川の水という湧水は、保々見湾のすぐ西に位置する清水寺のたもとにある。この湧き水は、天平年間（729–749）に行脚していた僧の行基（668–749）が島にたどり着いた際に発見された。彼は鬱蒼とした木蔭の洞窟から音を立てて流れ出ている湧き水に霊気を感じた。行基はこの地に一宇を建て、聖観音菩薩を祀った。寺を清水寺と号し、この水を天恵の川と名づけた。これが後に現在の名前になった。何百年もの間、地元の人々はこの湧水を「川」と呼び続けてきた。水によって病が癒されると信じられており、記録されている限り、一度も枯れたことがない。

天川の水は、水源から直接飲めるほどきれいな水を 1 日当たり 400 メートルトン産出する。実際に、純度が高いことから地元で作られる酒の重要な原材料となっている。隠岐酒造は隠岐の島の町内にある工場でこの水を使って製造を行っている。純度が高いこと、歴史があること、そして地域におけるその重要性から、1985 年には環境庁選定の名水百選の 64 番目に指定された。